

ロブ産業保健サービス

株式会社ロブ

<https://www.lov.co.jp/>

メンタルヘルスは人材育成、ストレスマネジメントは組織活性化

提供可能エリア(可能エリアが青塗)

北海道	東北	関東	甲信越
北陸	東海	近畿	中国
四国	九州	沖縄	海外

提供可能法人規模(◎:実績あり、○:提供可)

50人未満	1,000人未満	10,000人未満	10,000人以上
○	◎	◎	◎

サービスの目的・期待される効果

【凡例】◎:実証評価>●:理論的裏付け>○:ユーザー評価

基盤整備	法制度対応	●
	制度・施策体系の整理	●
	人事・産業保健業務の効率化・負担減	●
	組織状況の把握	●
取組の普及・浸透	サーベイ受検率向上	—
	相談窓口の利用率・認知率向上	●
	プログラムへの参加率・利用率向上	—
	不調の早期発見・対応	●
	ヘルスリテラシー・意識向上	●
	仕事のストレス要因低減	●
	心理的安全性・上司のサポート力向上	—
周囲のサポート力向上	—	
心の健康・業務パフォーマンス	生活習慣の改善	—
	健康状態・心理指標改善	—
	アブゼンティーズム改善	—
	プレゼンティーズム改善	—
	ワーク・エンゲージメント向上	—
	従業員エンゲージメント向上	—
労務指標改善(離職率、残業時間等)	—	

サービスの概要・特徴

★ロブ産業保健サービスの根幹：労働安全衛生法、労働契約法等労働関連法規の元、事業者、統括する衛生管理の責任者を中心とするモデル構築をします。

★人的資本経営型モデル（ルール作りと産業保健スタッフの人財育成）：経営統括部門、人事部門、産業医・保健師・心理職を含む産業保健スタッフで編成する体制を構築します。各自の役割を明確にし、規程類も含めたルール作りの支援、経営陣への理念構築支援・経営的視点での健康情報提供、経営企画・組織部門での施策化、規程類作成、事業展開支援、専門職を含む産業保健スタッフには実務・スキル向上支援を行っています。

★客観データに基づく組織課題対応モデル：組織の状態を測る客観データとしてストレスチェック、意識調査（データベース化）に基づいた運用を行います（偏差値を活用）。

★アウトカムを明確にするモデル（個別対応⇒組織対応）：産業保健の目的は組織の目標達成、継続的・恒常的な価値創造です。この実現のためのアウトカムを明確にし、その達成へのマイルストーンを作っていきます。社員の「心身の状態」改善には、カウンセリングだけでなく組織対応が高い効果や帰属意識の向上を期待できます。

導入企業の評価

顧客企業の健康情報・意識調査情報分析結果を活用して、その時点の課題を明確にし、その改善策を策定・それに必要な体制構築、専門スタッフ教育（場合によっては新たなスタッフの追加）、必要な外部情報の提供（新たなDMHサービス情報等）、経営陣とのワークワークショップ、各部門とのワークショップ等を行っています。

顧客企業のコメント

評価コメント □

具体的なデータに基づいており、その先の展開等でも協力いただいています。

ロブ産業保健サービス

株式会社ロブ

<https://www.lov.co.jp/>

理論的裏付け

採用している理論の概要

- ★心身の状態への対応からのアプローチ:・NIOSH モデル（医療モデル）・心理ストレスモデル
高ストレス者の抽出及び対応はNIOSH モデルを活用するものの、それ以外に関してはストレス反応に「態度・行動」関連事項（離職、ハラスメント等）も入れる心理ストレスモデルを採用する。
- ★ストレス理論からのアプローチ:・因果関係モデル・調整要因モデル・個人・環境（P Efit 適合理論）・要求・コントロールモデル
- ★心理的資本からのアプローチ:・内発的モチベーションモデル・心理的回復モデル（レジリエンス）・心理的安全性モデル（相互理解等）・動機付けの期待理論・キャリア達成の期待理論
- ★認知理論からのアプローチ:・認知的準拠モデル
- ★公平理論からのアプローチ:・衡平理論
- 2 要因モデル:・交互作用モデル★周囲からの支援に基づくアプローチ:・ストレス緩衝モデル★人財育成からのアプローチ:・リフレクションに基づくアプローチ・生命型組織理論

実証評価

学術介入の有無	学術研究機関等による科学的な効果検証		学術研究期間等が介在しない独自の効果検証		
エビデンスの水準	ランダム化比較試験	非ランダム化比較試験	単純前後比較などの準 実験的研究	コホート研究	横断研究または症例対 照研究

実証評価の結果概要

実証評価は経営行動科学系の学会でなされています